

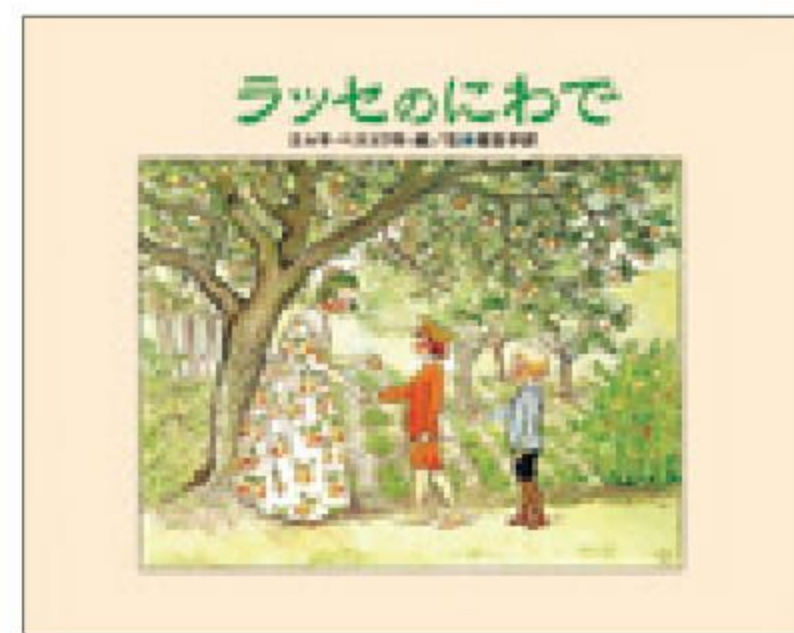
著作権保護コンテンツ



『ラッセのいわで』

作・絵/エルサ・ベスコフ 訳/石井登志子
1,400円 (徳間書店)

ラッセは遊んでいて見失ったボールを探すため、「くがつ」という名の男の子と一緒に庭中の草木を訪ね歩きます。あかふさすぐりのお嬢さんや、リンゴ婦人、プラムのむすめさん、かかしのおじさん、花畑の妖精たちがふたりを迎え、秋の実りを告げます。



『桃源郷ものがたり』

文/松居直 絵/蔡皋
1,600円 (福音館書店)

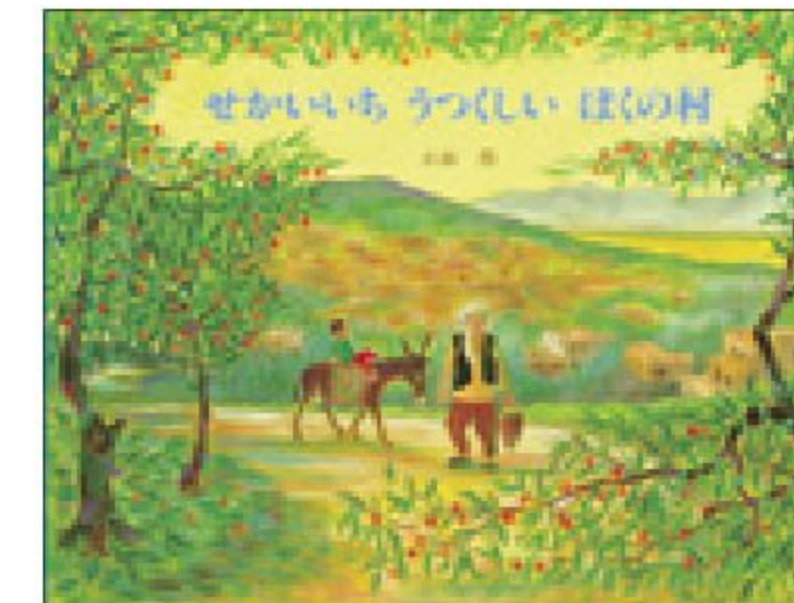
漁師が船を漕いでいると、両岸に見たこともない美しい風景が広がっていきました。どこかへ迷いこんだのでしょうか。古代中国の大詩人、陶淵明の『桃花源記』を原典としたおはなしです。



『あおのじかん』

文・絵/イザベル・シムレール 訳/石津ちひろ
1,700円 (岩波書店)

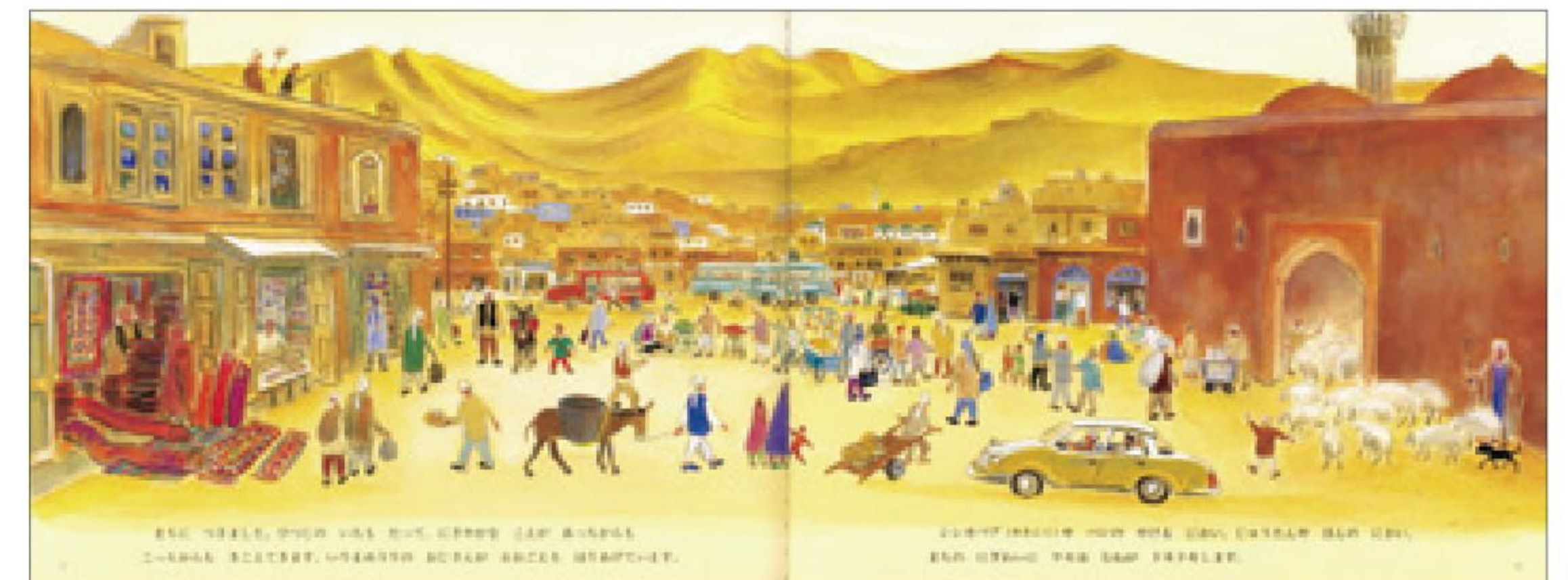
お日さまが沈み、夜がやってくるまでのひととき、あたりは青い色に染まります。それが、青の時間。青カケスがジェーツ、ジェーツと青の時間の始まりを告げます。少しピンク色が混ざった青から、しだいに夜の帳がおりるまでのさまざまな青が、幻想的に描かれます。



『せかいいち うつくしい ほくの村』

作/小林豊
1,200円 (ポプラ社)

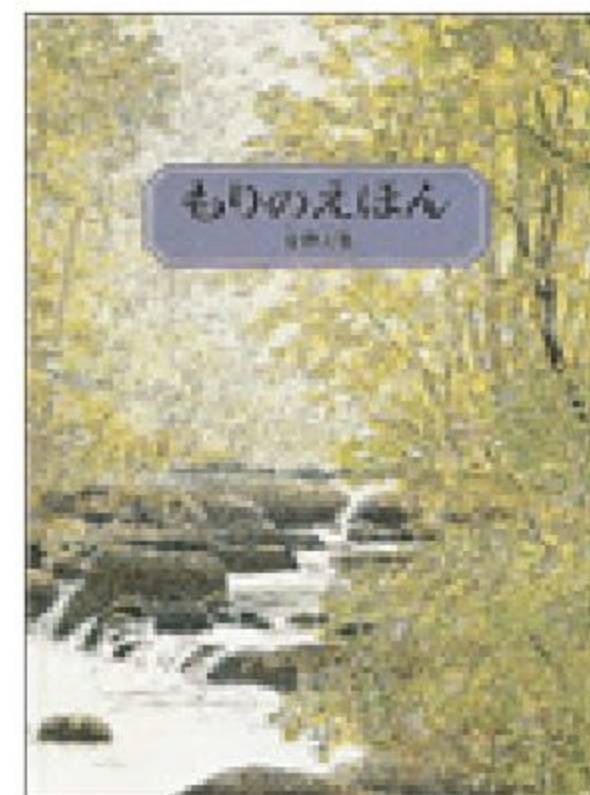
春になるとバグマンの村は、スモモやナシ、桜の花でいっぱいになります。夏になると少年ヤモは、果実を市場へ売りに行きます。行き帰りの村々の風景のなんとどこかで美しいことでしょう。



『はじまりのはな』

文/マイケル・J・ローゼン 絵/ソーニャ・ダノウスキ 訳/蜂飼耳
1,500円 (くもん出版)

日が短くなり、やがて訪れる冬の前に渡り鳥たちはあたたかい場所へ飛んでいきます。まだ若いローザは仲間とはぐれてしまい、助けてくれたイヌのミールと飼い主のアンナとともにひと冬を過ごします。やがて春が訪れて仲間が迎えに来たとき、ローザはここにどまるべきか悩みます。



『もりのえほん』

作/安野光雅
900円 (福音館書店)

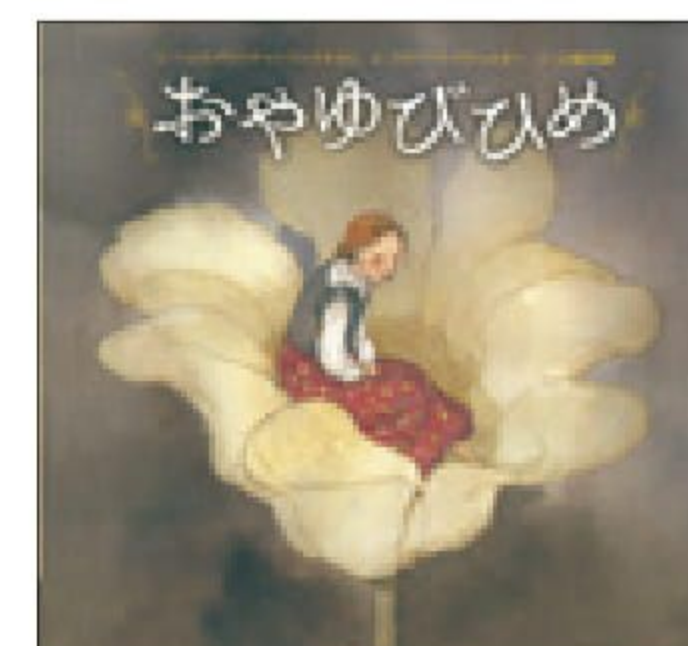
小川のせせらぎが聞こえてきそうな深い森の中。お日さまの光が差し込み、澄んだ空気があたりを包みます。おや、水辺に、木陰に、低い茂みの奥に、何か生きものが隠れているようです。



『シンデレラ または、小さなガラスのくつ』

ペロー童話
絵/エロール・ル・カイン
訳/中川千尋
1,300円 (ほるぷ出版)

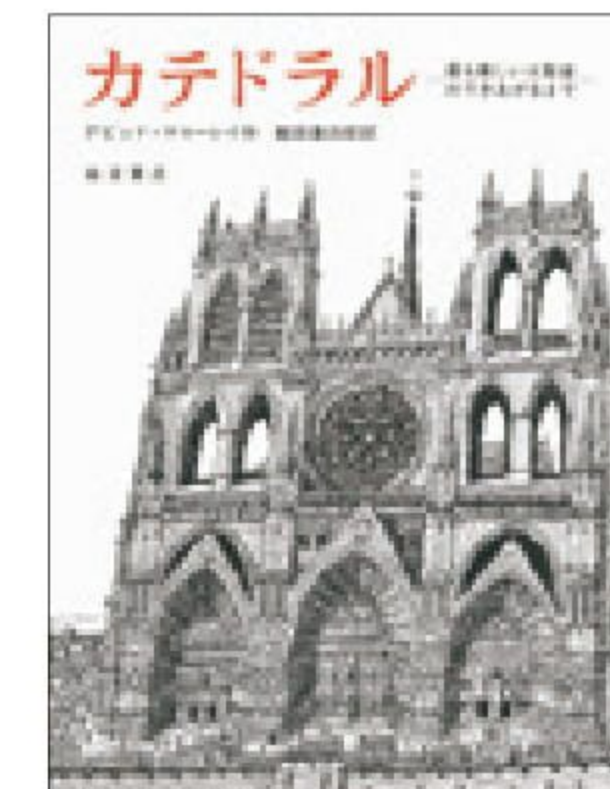
ある身分の高い男の人が、2度目の結婚をしました。今度の奥さんは大変なうぬぼれやで、いばりやで、連れてきた2人の娘も母親そっくりでした。男のひとり娘は気立てがよく、心のやさしい子でした。継母は娘の気立てのよさが痛にさわわり、つらい仕事ばかりを言いつけました。



『おやゆびひめ』

作/ハンス・クリスチャン・アンデルセン
絵/リズベート・ツヴェルガー
訳/江國香織
1,500円 (BL出版)

魔女からもらった種を植え、その花から生まれた小さな女の子を、女の人はおやゆびひめと名づけ、大切に育てました。けれどもある晩、醜いヒキガエルにさらわれてしまうのでした。



『カテドラル』

作/デビッド・マコーレイ 訳/飯田喜四郎
2,700円 (岩波書店)

中世ヨーロッパの各地に建てられた大聖堂。ゴシック様式の建造物は設計の段階から緻密です。膨大な費用と労力を費やして、できあがっていく様子を専門用語を交え、解説しています。



『星の使者 ガリレオ・ガリレイ』

文・絵/ピーター・シス
訳/原田 勝
1,600円 (徳間書店)

16世紀のイタリアに生まれたガリレオ・ガリレイは頭がよく、数々の学問を修めました。望遠鏡で夜空の観察をし、星に関する本を出版しました。しかし、その内容が教会の教えに反するものだったので宗教裁判にかけられ、有罪となっていました。



見る
しあわせ

「眼福」ともいえる
美しい絵の
作品を集めました。

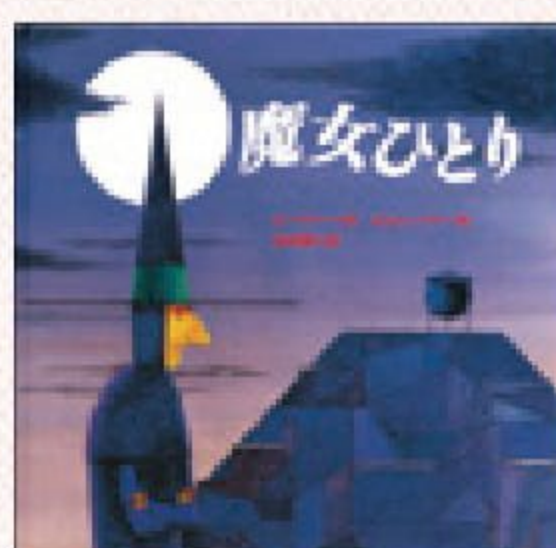


しあわせの名言

笑う門には福来る



『ワタナベさん』
作/北村直子
1,200円(偕成社)



『魔女ひとり』
作/ローラ・ルーク
絵/S.D. シンドラー
訳/金原瑞人
品切れ中(小峰書店)



食べることが大好き
おいしいものが大好きな作家
中島京子さんがおいしい絵本をご案内。
おいしいものを食べているときの
幸せな気持ちをお届けします。

文/中島京子

おなべ。
この不思議な魔法使い

寒くなる季節は、おなべ料理が恋しくなる。シチュー、おでん、もちろんスープ。囲炉裏に吊り下げられたおなべの中で、ぐつぐつ煮えているその土地、土地の自慢のなべ料理なんていうのも、冬の風物詩だろう。そう、「なべ」というのは、調理道具のことだけじゃなく、料理の名称でもあるんですね。

どんななべが好きですか、なんて質問をすると、答えに、その人の育った土地とか環境とか性格とか、いろんなものが見えてくる気がする。

ちなみにわたしは、なべ料理はわりとシンプルなのが好きで、ハウレンソウと豚肉だけの「常夜鍋」とか、鶏の水炊きとか、鱈ちりなんかを、冬にはよくやる。冬は土鍋が大活躍。

おなべには、種類がたくさんある。土鍋もあるけど、煮込みにはストウプやル・クルーゼみたいな鋳物ホロー鍋が欠かせないという人もいるだろうし、いいえウチはなんでも圧力鍋で時短調理ですという人もあるでしょう。寸胴鍋で鶏ガラスープをとりますって方もいれば、煮物はぜったいにアルミの文化鍋だ！ という方も。一人暮らしするときに買った、あるいは結婚を機に買ったおなべで、なんでも作りこなしますという達人もいるに違いない。

昔から思っていたことがある。材質おなべは、魔法使いだってこと。材質

なるけれど(おたのしみ、なんだそう。闇鍋みたいな感じ?)、ともかく、持ち帰り用に入れ物を持っていくと、好きなものをなんでも作ってくれる。ごはんだって得意料理だ。なんという頼れる存在だろう。

そんなある日、ワタナベさんのところに小さい男の子がやってきて、「ナポリタン」を注文する。

えーっ? ナポリタン?

ところが名人ワタナベさんは、一瞬考えてから、ナポリタンをおなべ一つで作る方法を編み出してしまふ。

すごいな、ワタナベさん。ナポリタンが作れるなら、ミートソースもカルボナーラも作れそうだな。ワタナベさんは無敵だな。

やっぱりおなべは魔法使いだ。そもそもおなべは魔法使いの小道具の一つでもある。

絵本の中で魔法は、たいいてい、大きなおなべをぐつぐつ言わせているものだ。こっちはあまり、食べてみたい代物ではないけれど、魔法薬をこしらえるのに、おなべの存在は欠かせない。

『魔女ひとり』は、まさに魔女とおなべの物語だ。

「まじよが ひとりで おかのうえからっぽ おなべの ふたとった」と始まる物語は、数え歌になっている。「のらネコ にひき」とか「かしさん」とか、いかにも魔法の友だちっぽい面々が、さかなの骨だの、こたりの爪だの、髪の毛だの、指の骨だのと、あんな

や形状は、魔法使いのキャラクターと魔法の個性を作り、ときにはその个性的なフタが魔法の杖の役割を果たす。

この、魔法使いたるおなべの存在を、そのまま絵本にしたのが『ワタナベさん』。ワタナベさんは、おなべの名前なのだ。そしてワタナベさんは、なんとイタリアアウトの料理店を一人(「なべ?」で経営していて、なべ一つでなんでも作ってみせる名人(名なべ?)である。

ちなみに、ワタナベさんの店の看板メニューを見てみよう。

ゆで豆腐
おでん
みずたき
もつなべ
すきなべ
ちゃんこ
キムチなべ
わたなべ
にこみうどん
とんじる
カレー
シチュー
ハヤシ
ポトフ
ミネストローネ
ボルシチ

カレーやシチュー、ちゃんこは一種類ではないらしい。さりげなく掲げられている「わたなべ」ってなんなのか気に

まりおいしそうじゃないものを、手渡す。魔法は友人たちに招待状を送り、大きなおなべでシチューを作る。

「おなべを ませて ことごと ことごと」「たきを ぐべて ぐつぐつぐつぐつ」。

招待状を持参してドラキュラやら、ガイコツやらが、集まって来る。

「さあさあ みんな あつまつてぶきみな シチューに したつづみ」というわけだ。

みんながおいしそうに食べている姿は、うーん、なんとも言えないが、大きなおなべで作った、たつぷりシチューは、みんなで食べてこそおいしさに違いない。

じつは昔から、小説を書くこととおなべでシチューを作ることは似ているなと思っていた。フタをしてぐつぐつ煮れば出来上がり! というのとは、ちょっと違うのだけれど、いろんな素材を入れて、スパイスを効かせ、びっくりする人物や事件は、生々しくないように、味が滲みて角が取れるように工夫して。

そう、もしかしたら、おたのしみの「わたなべ」に、似てるかもしれない。

冬の寒い日は、物語とおなべを。

中島京子
なかじま・きょうこ
1964年、東京都生まれ。作家。2003年『FUTON』(講談社)でデビュー。10年『小さいうち』(文藝春秋)で第143回直木賞受賞。15年『かたづの!』(集英社)で第3回河合隼雄物語賞、『長いお別れ』(文藝春秋)で第10回中央論文芸賞受賞。最新作は『キッドの運命』(集英社)。読売新聞夕刊で小説『やさしい猫』連載中。

祝 創刊40周年

青い鳥文庫

『作家になりたい!』 (既刊8巻)
作/小林深雪 絵/牧村久実 各620~680円

『黒魔女さんが通る!!』 (20巻+番外編1冊+6年生編も)
作/石崎洋司 絵/藤田香 各740~780円

『怪盗クイーン』シリーズ (既刊13巻)
作/はやみねかおる 絵/K2商会 各700~980円

『探偵チームKZ 事件ノート』シリーズ (既刊33巻)
原作/藤本ひとみ 文/住瀬良 絵/駒形 各620~820円

『氷の上のプリンセス』 (10巻+ジュニア編も刊行中)
作/風野潮 絵/Nardack 各620~680円

『小説 ゆずの どうぶつカルテ』 (既刊6巻)
原作/絵/伊藤みんご 文/辻みゆき 各680円

『若おかみは小学生!』シリーズ (本編20巻+番外編4冊)
作/令丈ヒロ子 絵/垂沙美 各620~740円

『盲導犬不合格物語』
文/沢田俊子 絵/佐藤やえ子 620円

『エトワール!』 (既刊7巻)
作/梅田みか 絵/結布 各650~740円

『オリエン特急 殺人事件』
作/アガサ・クリスティ 訳/茅野美と里 900円

『クラバート』(上下)
作/プロイスラー 訳/中村浩三 各800円

『星と伝説』
作/野尻抱影 800円

『ふしぎの国の アリス』
作/ルイス・キャロル 訳/岸生一 700円

『大どろぼう ホツエンプロッツ』
作/プロイスラー 訳/中村浩三 600円

『コンチキ号漂流記』
作/ハイエルダール 訳/神宮輝夫 800円

『二分間の冒険』
作/岡田淳 絵/太田大八 800円

『新版 流れる星は 生きている』
作/藤原てい 800円

『ぼくは盲導犬 チャンピイ』
作/河相冽 700円

<http://aoitori.kodansha.co.jp/>

著作権保護
コンテンツ

『クラバート』(上下)
作/プロイスラー 訳/中村浩三 各800円

『星と伝説』
作/野尻抱影 800円

『オリエン特急 殺人事件』
作/アガサ・クリスティ 訳/茅野美と里 900円

『大どろぼう ホツエンプロッツ』
作/プロイスラー 訳/中村浩三 600円

『ふしぎの国の アリス』
作/ルイス・キャロル 訳/岸生一 700円

『コンチキ号漂流記』
作/ハイエルダール 訳/神宮輝夫 800円

『二分間の冒険』
作/岡田淳 絵/太田大八 800円

『新版 流れる星は 生きている』
作/藤原てい 800円

『ぼくは盲導犬 チャンピイ』
作/河相冽 700円

『クラバート』(上下)
作/プロイスラー 訳/中村浩三 各800円

『星と伝説』
作/野尻抱影 800円

『オリエン特急 殺人事件』
作/アガサ・クリスティ 訳/茅野美と里 900円

『大どろぼう ホツエンプロッツ』
作/プロイスラー 訳/中村浩三 600円

『ふしぎの国の アリス』
作/ルイス・キャロル 訳/岸生一 700円

『コンチキ号漂流記』
作/ハイエルダール 訳/神宮輝夫 800円

『二分間の冒険』
作/岡田淳 絵/太田大八 800円

『新版 流れる星は 生きている』
作/藤原てい 800円

『ぼくは盲導犬 チャンピイ』
作/河相冽 700円

<https://www.kaiseisha.co.jp/paperback>

中級 (小学校4~6年生) に人気の3作品

6 小5のときにパパを亡くしたかすみは、内気だけど、フィギュアスケートが大好きなことでは誰にも負けません。そんなかすみが夢に向かってがんばる姿に応援の嵐! 天才スケーター・瀬賀くんと恋にもドッキドキ♡

5 恋愛要素も含んだコーナーあつぷりのストーリー展開で、読み進めていくうちに自分でも小説を書いてみたいくなります。巻末の「天才双子の小説教室」では、小説を書くための具体的なアドバイスがいっぱい!

4 小5のチョコは、間違えて呼びだしてしまった黒魔女グュービッドのもと、絶賛黒魔女修行中! 読者が一緒に考えてくれる超・個性的なクラスメイトたちのおかげで毎日が大騒ぎ! 6年生編もあるよ!

3 獣医見習いのゆずと一緒に、いろいろなワンちゃんやネコちゃん、その飼い主さんたちに出会えます。それぞれが抱えている病気や問題を知り、動物を飼うことの大変さや命の尊さを学ぶことができます。

2 主人公のおっちは温泉旅館の若おかみ修業中。がんばるおっことを思わず応援したくなる! ユーレイや魔物の友だちとのやりとりが楽しい、笑って泣けるロングセラー。2018年にアニメ化され、さらに人気アツプ!

1 「不合格」になったのは「ダメな犬」だからではなく、盲導犬に向かなかっただけ。個性を生かして違う舞台上で活躍する犬たちの姿に励まされます。読みやすい文章で文字が大きく、本が苦手なお子さんにも。

小学校高学年向け (文庫 No.3000番台) で人気の3作品

6 「おもしろかったよ」とボワロの似顔絵つきの葉書や、「子どもが読んでるのにつられて、私も夢中になりました」という声が届きます。ほかにもホームズやルパンなどの探偵・推理シリーズは、子どもにも大人にも大人気です。

5 異世界に迷いこんでしまった悟。もとの世界に戻るただひとつの方法は「いちばんたしかなもの」の姿になった黒ネコを見つけたこと。衝撃の展開に「今まで読んだ中でいちばんおもしろい!」という声も多い児童文学の最高峰。

4 「ポリネシア人は南米から海を渡っていったのだ」。その考えを確かめるべく、ペルーから南太平洋の島までいかだで航海したハイエルダールの記録。ときにユーモアをまじえてつづるロングセラーの傑作冒険ノンフィクション。

3 アジア、ポリネシア、ギリシャなど世界各地の星にまつわる伝説22編を所収。1961年刊行の単行本は偕成社の本の中で最も長く売れ続けている作品のひとつです。懐かしくて親しみのある挿絵と美しい語り口が人気の1冊。

2 原書と同じテニエルの挿絵を使用し、字は大きく、行間は広く、ひらがなを多くした読みやすい完訳です。名作を多くの子どもたちに届ける、基本姿勢があらわれた1冊のように思います。

1 おばあさんの大切なコーヒーひきを奪った大どろぼうを追うカスパールとゼツベル。少年たちの大活躍に「次のページが楽しみでドキドキ」「続きが読みたい!」など多くの声が届きます。半世紀以上のロングセラー。

上級 (中学生から) に人気の3作品

9 主人公の彩がイケメン&ハイスベック男子6人に囲まれている「探偵チームKZ」。最新科学、社会問題、古今東西の地理や歴史など、ふかーい知識を駆使しながらチームワークで難事件を解決する爽快感が読者を虜に!

8 バレエに本気で取り組む主人公のめい。ライバルの同級生女子の登場や、憧れのバレエ男子・透君との関係にハラハラドキドキ。バレエ経験のある著者ならではの、作品やテクニク、レッスンの描写が超リアル!

7 規格外の設定、個性派ぞろいのキャラクター、大胆かつ緻密なプロット、会話の妙……。物語のおもしろさをすべて詰めこんだこのシリーズは、「大人になってからもずっと読み続けたい!」という声が多いです。

青い鳥文庫のご紹介

物語の持つ素晴らしさを子どもたちに伝えようと、1980年に創刊した青い鳥文庫。今年で創刊40周年を迎えます。恋愛、冒険、ミステリー、ファンタジー、ノベライズ、伝記、名作など、子どもたちのあらゆる興味や関心に寄り添い、子どもたちがドキドキワクワクして「これは自分たちの物語」だと思える作品づくりを心がけています。

子どもたちが本を通して、新たな世界に巡り合い、心が豊かになるきっかけになることを願っています。

(講談社編集部 田中利幸さん)

中学生向け (文庫 No.4000番台) で人気の3作品

9 水車場で見習いとなった少年クラバート。厳しい親方のもとで週に一度クラスとなり魔法を習うことに。夢かうつつか緊張感あふれる描写が、読者を伝説の時代へと誘います。刊行40年超えの異色ダーク・ファンタジー。

8 3人の子どもを連れ、満州から日本への引き揚げを体験した著者の魂の記録。「この本に出合えてよかった、私の年代は親が引き揚げを経験された方の感想や、子どもたちにも読んでほしいという声が多く聞かれます。

7 今から約60年前に日本初の盲導犬が誕生しました。それがチャンピイです。試行錯誤を繰り返しながら、訓練に励む盲導犬の活動の黎明期を描きます。この作品のようなバリアフリーがテーマの本も、幅広く読まれています。

偕成社文庫のご紹介

時代に流されないラインナップ、読みやすさへのこだわり、子どもから大人まで楽しめる、それが偕成社文庫です。

海外作品は完訳を基本とし、原書の雰囲気にならされるよう、できるときは原書の挿絵や装画を使用しています。もちろん日本の古典・名作も原典に忠実です。各巻には、作品の時代背景や作者についての充実した解説が収録されています。さまざまなジャンルから、時代を超えておもしろい作品を集めていますので、ぜひご覧ください。

(偕成社編集部)

著作権保護コンテンツ



アトリエとキッチンが一体化しているのも、はらぺこさんならではの。カレーは新作の原画。



HARAPEKO SAN …はらぺこさん

「どちらがはらぺこさんで、どちらがめがねさんですか？ とよく聞かれるのですが、特に決めていなくて。というより、ふたり合わせて『はらぺこめがね』だと思っています。ユニット名は食べものにちなんだ名前にしたいと思い、原田とサラダをかけようかなど、いろいろ考えました。ふたりともめがねをかけるようになったので、めがねもいけるね、と。そんなある日、はらぺこというワードを思いついて、『はらぺこめがね』になったのですが、私は人から『はらぺこさん』って呼ばれるのが面白くて大好き(笑)。最近は宅配便の配達の方にも、『はらぺこさん』と呼ばれます。めがねさんと呼ばれたことはふたりとも一度もないかな(関)

はらぺこめがねさん を知る

5

つの
キーワード

食べものと人をテーマに、誰にもマネできないユニークな絵本を次々と世に送り出しているはらぺこめがねさん。食べものにまつわることも、食べもの以外のことも、知れば知るほど個性のおふたりです。



FACE ART …顔アート

「似顔絵ならめ『顔アート』を思いついたのは、病院で子どもたちのお世話をするバイトをしながら、絵を描く夢を追いかけていたこと。子どもたちから『絵を描いて!』と言われて、似顔絵を描いていたのですが、もうちょっと自分らしいこと、人がやっていないことをやりたいと考えて。私はもともと抽象画が好きで、見たものをそのまま描けるたちではないので、その人の雰囲気や絵にしたいのですが、反響は想像以上でした。それまでは何のために絵を描いているのか、何を描けばいいのかわからなかったけれど、『顔アート』では描きがいみたいなものを感じられた。当時の私は絵を描きながら、癒やされていったように思います(関)



モデルになった人がみんなうれしい気持ちになる、ほんわかやさしい仕上がりの顔アート。



SOUL …阿波おどり

「2020年の今年中止になってしまいましたが、毎年8月には『阿波おどり』の踊る阿呆になるため徳島に帰省しています。あたりまえのことすぎて考えたことがなかったけれど、ほくにとっての阿波おどりは、永遠の青春。いや、もうひとつの表現の場、違うなあ。踊りの神が体に宿る日、うーん。歯磨きするみたいにごくあたりまえのこと。これもなんだかなあ。血で踊っているというか、魂で踊っているというか、本能ですかね。シーズンが来ると血が騒いで、踊らずにはられない。逆にシーズン以外はまったく血が騒ぐことはないです。阿波おどりの歌の出だしに『踊る阿呆に見る阿呆同じ阿呆なら踊らにや損々』がありますが、本当にそうだなあとと思います(原田)



本誌76号の中島京子さんの連載「おいしい絵本」には「じゃがいもひめとさつまいもひめ」(P35)が登場。驚くおふたり。

ATELIER FOODS …#アトリエめし

「アトリエで食べる昼ごはんを『#アトリエめし』としてインスタグラムで発信しています。アトリエめしを作るのは、主にほく。関もたまに。冷蔵庫をのぞいて、あるもので適当に。自分の食べたいものを作ったり、関のリクエストに応えたり、あとは2歳の娘の好物を作ったり。別々に作るのは面倒なので、だいたい娘が食べられるものを考えています。先日は関のリクエストでゴーヤチャンプルーを作りましたが、娘はゴーヤを食べないので、チャンプルーに入っているスパムとレトルトカレーにしました。たまに近所の精肉店で大きな肉を買って、赤ワインで煮込んだりも。冬場は仕事をしながらストーブの上で煮込み料理をすることが多いです(原田)



お店を開いたら、行列のできるアトリエになりそう。ピーマン炒飯は長女・汐ちゃんの大好き。梅干しも手間ひまかけた自家製です。

AUDITION …オーディション

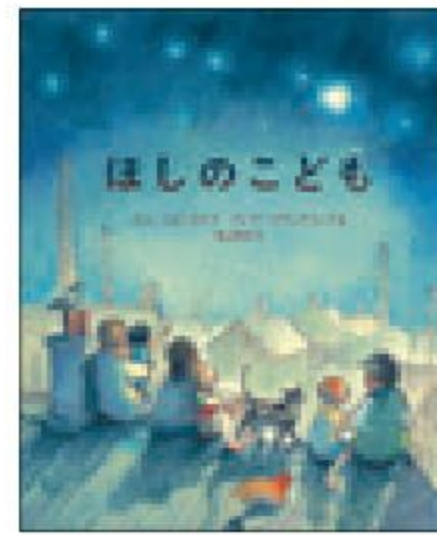
「『にくのくに』(P35)は全32ページ。そのなかで描けるお肉は7~8種類。そこで、肉料理のオーディションをしました。ローストビーフは絶対に描きたい。そうすると似たカテゴリーのステーキは描けない。焼き肉、焼きとり、角煮にしゃぶしゃぶ。出したいけど出せへんみたいなもどかしさを感じながら、牛・豚・鶏をバランスよく出すには大好きでメジャーな料理も落とすしかなくて。

最新作の『かける』(P35)では、食器のオーディションもしたんです。外出自粛の時期と重なったので、ネットで探して取り寄せたり、アンティークショップを経営している友だちの店で買ったり。迷った末、オーディションを通過したのは家にあったお皿でした(原田)



『ほしのこども』

文/メム・フォックス
絵/フレヤ・ブラックウッド
訳/横山和江
1,600円(岩波書店)



あるとき空から落ちた星は赤ん坊になり、通りすがりのふたりに拾われて大切に育てられました。みんなから愛され、満ちた毎日を送っていた星の子どもも、やがて小さなおばあさんになりました。

『だいぶつさま おまつりですよ』

文/刈田澄子
絵/中川 学
1,400円(アリス館)



今日は仏さまたちのお祭りです。千手観音はたこ焼き屋、文殊菩薩はもんじや焼き屋、いろいろなお店が並んでいます。そこに大きな大きな大仏さまもやってきました。お神輿もいいけれど、おばけ屋敷にも興味津々です。

『つるかめ つるかめ』

文/中脇初枝
絵/あずみ虫
1,200円(あすなろ書房)



「くわばら くわばら」って何でしょう。心が落ち着くおまじないです。自分の力ではどうしようもできないとき、昔の人はおまじないを唱えて乗り越えてきました。おまじないは、励まし勇気をくれる言葉です。

もう
読んだ?
新刊
100!!

2020年6～8月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順
🔴マークは幼児から、🟢は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『ばんそうこう くださいな』

作/矢野アケミ
1,200円(WAVE出版)



すり傷にばんそうこうを貼ってもらったうみちゃんは、いいことを思いつきました。お母さんから箱ごとばんそうこうをもらって、ばんそうこう屋さんを始めたのです。「くださいな」。お客さんは次々やってきて、箱は空っぽになってしまいました。

『ポッポーきかんしゃ』

作/とよたかずひこ
900円(アリス館)



「ポッポーガタンゴトン しゅっぱつしまーす!」。運転手は、だるまちゃん。ネコさん、イヌさんが乗ってきました。雨が降ってくると、雨の好きな動物が乗ってきました。さて、次は誰が乗ってくるでしょう?

『のりかえの旅』

作/長田真作
1,400円(あすなろ書房)



まずバスに乗って、次はトラック。そしてモノレールに乗り換えると、汽車、船、潜水艦、エレベーター、モンスタートラック、なんと13回も乗り換えました。さあ、たどりついたところは、どこでしょうか?

『かべのあっちとこっち』

作/ジョン・エイジャー
訳/なかにしちかこ
1,800円(潮出版社)



絵本のまん中の大きな壁はいつもぼくを守ってくれます。怖い動物たちだって来ることはできないし、人食い鬼に食べられることもありません。でも壁の向こうは本当に恐ろしいところ? 勇気を出して行ってみましょう。

『ちいさな しょうおうばち マルグリット』

文/絵/アントン・クリングス
訳/河野万里子
1,500円(イメージエディション・プラス)



ミツバチのマルグリットは、生まれたときから女王バチになるために育てられました。それは、窮屈な生活です。ある日、いとこのスズメバチに誘われて、こっそり城を出てしまいました。

『みんな みんな おやすみなさい』

文/いまむらあしこ
絵/にしざかひろみ
850円(あすなろ書房)



夜、お月さまのほるとみんなみんな、眠たくなってきます。子ヒツジたち、フクロウたち、子ウサギたち、子どもたち、そして、お月さまも。静かな夜に、みんなみんな、おやすみなさい。

『カメレオンどろぼう・ドロン』

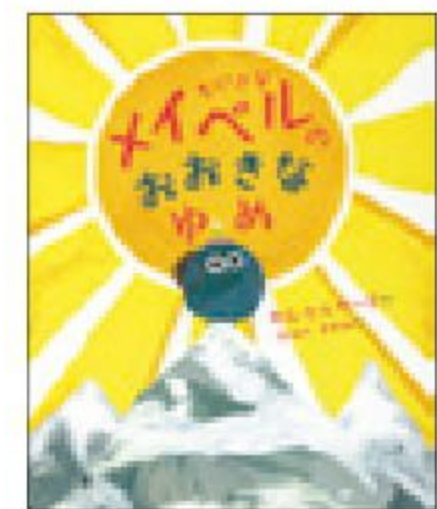
作/刈田澄子
絵/伊藤夏紀
1,200円(あかね書房)



ハリネズミのチクリン警部にカメレオンどろぼうのドロンから「金の冠をいただく」と挑戦状が届きました。ドロンは身を隠しお宝にたどりつきませんが、警部が守りを固めています。ドロンと警察の追いかっけが始まりました。

『ちいさなメイベルのおおきなゆめ』

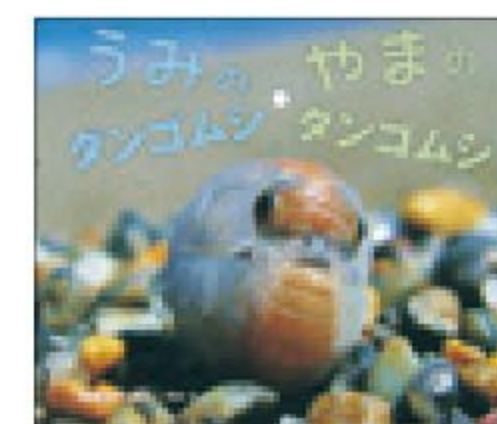
作/キム・ヒルヤード
訳/なかのまゆみ
1,700円(潮出版社)



メイベルは、小さなハエの女の子で、大きな夢を持っています。「私ならできると信じて、失敗しても「あきらめないで」とチャレンジします。メイベルは、夢をかなえることができるでしょうか。

『うみのダンゴムシ・やまのダンゴムシ』

写真/文/皆越ようせい
1,600円(岩崎書店)



ダンゴムシは、甲殻類の生きものです。海辺にも、山にも、町中にもいますが、同じ種類ではありません。似ているところも、違うところもあります。海と山と町、それぞれのダンゴムシの様子を伝える写真絵本です。

『あ』

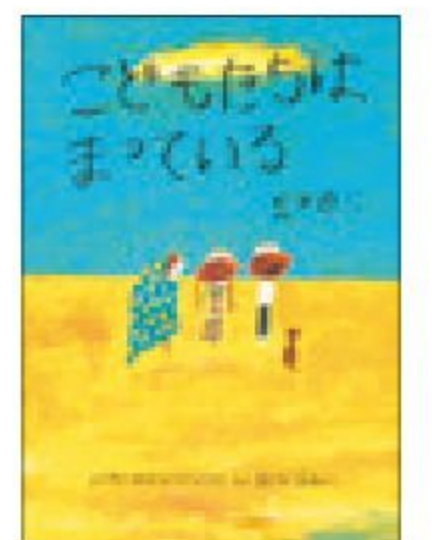
文/たにかわしゅんたろう
絵/ひろせけん
1,200円(アリス館)



五十音のはじまり「あ」。ひとりぼっちで寂しそう、と思ったら、「あ」がやってきて「あお」になりました。文字が次々現れて、どんどん言葉ができていきます。「あか」「あし」「あな」……。文字と文字で言葉ができるおもしろさを!

『こどもたちはまっている』

作/荒井良二
1,600円(亜紀書房)



子どもたちは、いつも何かを待っています。船が通るのを、ロバが来るのを、貨物列車が通過するのを、雨上がり……。子どもたちは、待っています。ひとつの出会いが次の出会いを生み出すのです。

『たびにでた』

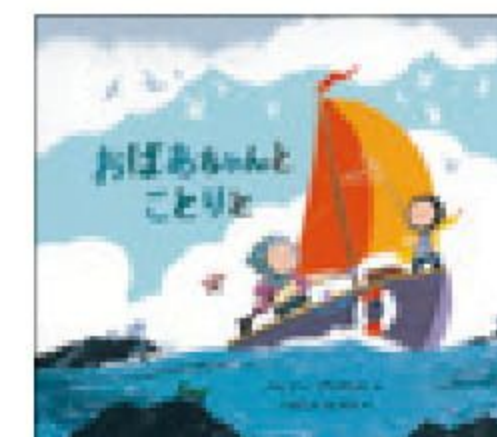
作/楓 真知子
1,300円(絵本館)



動物たちは旅に出ます。朝が来たから、鐘が鳴ったから、花が咲いたから、風が吹いたから、太陽がっぺんにのぼったから。きっかけはそれぞれ違います。どこに行くのでしょうか? ズンズンズン あっ!

『おばあちゃんと ことりと』

作/ベンジー・テイヴィス
訳/いわじょうよしひと
1,400円(岩崎書店)



この夏、ノイは遠い小さな島にあるおばあちゃんの家に泊まることになりました。ある日、ひとりで遊んでいるうちに嵐が来て洞窟に逃げこむと、小鳥も飛びこんできました。やがて、水が増えて洞窟にもいられなくなりました。

『カメレオンのかきごおりや』

作/谷口智則
1,500円(アリス館)



旅するかき氷屋のカメレオンは、世界中で集めた色とりどりのシロップが自慢です。カメレオンのすすめる色のかき氷を食べると、不思議なことが起こります。寒い冬、北の国でカメレオンが探しているのは……。

『あるヘラジカの物語』

原案/星野道夫
絵/文/鈴木まもる
1,500円(あすなろ書房)



2頭のヘラジカの角がからみあったまま骨になっている写真。考えられるのは、どんなことでしょうか。不幸な事故で世を去った写真家が残した1枚の写真から、大自然のドラマと生命のつながりの物語が誕生しました。

※JPIC直販の定期購読の方に、抽選で新刊絵本100冊から1冊をプレゼントします。巻末のアンケートハガキまたはホームページのアンケートフォームから応募してください。

著作権保護コンテンツ

プログラム (各 10 ~ 15 分) 小学校高学年

1月 テーマ: 動物と人と

① 『十二支のしんねんかい』

文/みつきみ 画/柳原良平
1,100円 (こぐま社)
お正月の動物といえば十二支。リズムのつてテンポよく読みあげましょう。



② 『牛をかぶったカメラマン』

作/レベッカ・ボンド 訳/福本友美子
1,500円 (光村教育図書)
ブックトーク。干支つながりで表紙の牛に注目! 望遠レンズのない時代に、自然のままの鳥の姿を撮ろうとした兄弟の工夫とは?



③ 『ハクトウワシ』

写真・文/前川貴行
1,600円 (新日本出版社)
では現代はどうでしょうか。過酷な撮影現場に身を置き、野生の姿を撮るのはなぜ? 思いを込めて撮られた写真は、見る人の心を打ち、「考える」きっかけを与えてくれます。



2月 テーマ: まだまだ寒い!?

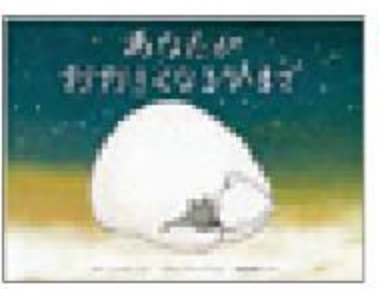
① 『ふゆとみずのまほう こおり』

写真・文/片平孝
1,500円 (ポプラ社)
一年でいちばん寒くなる2月。知っているように知らない氷のことを美しい写真で紹介。



② 『あなたが おおきくなるひまで』

文/ケイト・バンクス 絵/ナオコ・ストープ
訳/浜崎絵梨 1,400円 (岩崎書店)
寒い寒い北極のシロクマとオオカミの物語。母親じゃなくても、愛情をもって育ててくれるやさしさは、命と同じで巡り続けます。穏やかにやさしいこの物語も、巡り続けると感じる裏の見返しまで味わいたいですね。



3月 テーマ: 旅立ちに寄せて

① 『ピンクのれいぞうこ』

作・絵/ティム・イーガン
訳/まえざわあきえ
品切れ中 (ひさかたチャイルド)
不思議なピンクの冷蔵庫が、一步を踏みだす後押しをしてくれます。「どんどんやってみよう」を合言葉に、新しい世界に出発!



② 『たくさんのおア』

文/アリスン・マギー 絵/ユ・テウン
訳/なかがわちひろ 1,300円 (主婦の友社)
旅立ちには不安もあるけれど、ドアの向こうには喜びも待っています。年度の締めくくりには、応援の気持ちを込めて読みたい絵本です。



(武智俱子)

プログラム (各 10 ~ 15 分) 小学校中学年

1月 テーマ: ゆき・ゆき・ゆき

① 『ゆきの けっしょう』

監修・写真/武田康男 構成・文/小杉みのり
1,300円 (岩崎書店)
小さな雪の粒に、こんな美しさが隠れているなんて……。雪を科学的に語っています。



② 『くすのきだんちは ゆきのなか』

作/武鹿悦子 絵/末崎茂樹
1,200円 (ひかりのくに)
クスノキがそのまま、動物たちの家に。秘密基地やツリーハウスに憧れる子どもたちが興味をそえられるかも。



③ 『どんなに きみが好きだからあててごらん』

文/サム・マクブラットニー 絵/アニタ・ジェラーム
訳/小川仁央 1,300円 (評論社)
雪原でのチビウサギとテカウサギの会話がほほえましいですね。



2月 テーマ: 雪がとけると……

① 『ゆきひめ』

作/大川悦生 絵/上野紀子
1,000円 (ポプラ社)
恐ろしい雪ばんばから逃れ、やさしいさまとばあさまの家にお世話になった雪姫。けれど、春が近づくと……。



② 『あたし ゆきおんな』

文/富安陽子 絵/飯野和好
1,300円 (童心社)
春になると、雪女は死ぬの? いいえ、冬が来たらまた生まれるのさ。



3月 テーマ: 旅立ち

① 『はくちょう』

文/内田麟太郎 絵/いせひでこ
1,600円 (講談社)
北国に飛び立つ白鳥。幻想的な絵で想像力をかきたてます。



② 『新世界へ』

作/あべ弘士
1,400円 (偕成社)
南の越冬地に、はじめて旅立つカオジロガン。長い旅の様子がかたく描かれています。



③ 『うみのむこうは』

作/五味太郎
1,200円 (絵本館)
3月なのに、海の本? そうです。海はいつも、目の前に開けているのです。



(北原由美子)

プログラム (各 10 ~ 15 分) 小学校低学年

1月 テーマ: 縁起がいいねえ

① 『お正月』

文/桂文我 絵/国松エリカ
1,300円 (BL出版)
丁稚が主人公の落語絵本。テンポのよさと、オチを意識するとおもしろさが伝わります。



② 『どこどこ こけし』

作/山田マチ 絵/花山かずみ
1,300円 (こぐま社)
こけしも縁起ものですね。隠れているこけしはそっと指さしてあげて。



③ 『つんつくせんせいと かさじぞう』

作・絵/たかどのほご
品切れ中 (フレーベル館)
最後はお地藏さん。モチーフになっている『かさじぞう』など昔ばなしにつなげて。



2月 テーマ: 寒くてもほかほかです

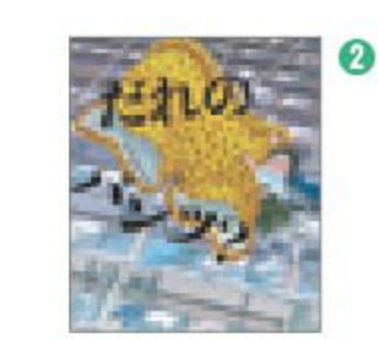
① 『ひつじぼん』

作・絵/あきやまただし
1,200円 (鈴木出版)
繰り返し心地よく響くよう、リズムよく読んでみてください。



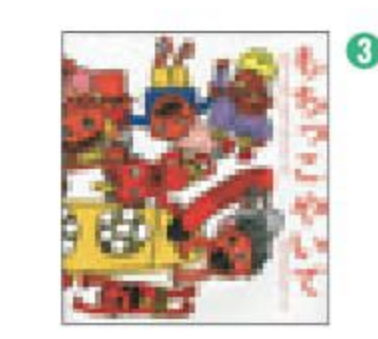
② 『だれのパンツ?』

作/シゲリカツヒコ
1,300円 (KADOKAWA)
ヒツジからは毛糸がとれますね。鬼のパンツは毛糸じゃないかもしれませんが……。節分といえば? 鬼のパンツのおはなし。



③ 『もっこ やいて』

作/やぎゅげんいちろう
1,300円 (福音館書店)
鬼や北風、春風の子どもたちが冬から春への移り変わりを感じさせます。もとのわらべ歌「かれっこやいて」も歌うと楽しいです。



3月 テーマ: あまーい風が吹いたら

① 『ふゆめがっしょうだん』

写真/富成忠夫、茂木透 文/長 新太
900円 (福音館書店)
冬芽の顔が興味を引きます。木をあてるクイズをしたり、あとで校庭で探したりも。実物は思ったより小さいのでちょっとびっくり。



② 『かふんとみつ』

作/飯野和好
1,500円 (絵本塾出版)
甘い風が春を運んでくるように、ゆつくり絵を味わって。



③ 『とん ことり』

作/筒井頼子 絵/林 明子
900円 (福音館書店)
別れと出会いの季節。お花の手紙が春らしさと新しい出会いを子どもたちに届けます。



(石井澄子)



対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

千支・うし

『うしのもーさん』

作/風木一人 絵/西村敏雄 1,000円 (教育画劇)
ウシのもーさんは大きくて、力持ち。ほくやみんなが「のせて」って言うのと、「いいとも」と背中に乗せてくれました。そして、のんびり歩いていきます。



ひなまつり

『おいしい おひなさま』

文/すとうあさえ 絵/小林ゆき子
950円 (ほるぷ出版)
おひなさまを見た、ネズミちゃんとリスちゃんとウサギちゃんとタヌキちゃんは、自分でおひなさまを作って、見せっこすることにしました。どんなおひなさまがでるでしょう。



紙芝居

『しまいが やってきた!』

脚本/よこみちけいこ 絵/ひろかわさこ
1,400円 (童心社)
お正月の朝、けんちゃんのところに、こわい顔のへんてこな生きものがやってきました。大きな口をぱっくり開けて、お正月のお祝いに来た、笑っていますよ。



紙芝居

『おにはーそと!』

脚本/すぎのこ保育園 絵/長谷川知子
1,400円 (童心社)
みんなの体の中には、鬼がいるそうです。泣き虫鬼に、おこりんぼ鬼に、ねほすけ鬼。鬼退治したいなら、大きな声で言ってみましょう。「おにはーそと!」ってね。



紙芝居

『ありがとう げんきでね』

脚本/やすいすえこ 絵/小泉みり
1,900円 (童心社)
けいくんが、この春卒業するなかよし園には、おじいちゃんも通っていたそうです。けいくんは、まーほうと呼ばれていたおじいちゃん、遊びたいと思いました。



(安富ゆかり)